



Title	職場・業務紹介 附属植物園
Author(s)	山形, 剛三
Citation	北海道大学農学部技術部研究・技術報告, 1, 56-56
Issue Date	1994-03
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/35270
Type	bulletin (article)
File Information	1_p56.pdf



[Instructions for use](#)

山形 剛三（園内共通作業統括・高山植物苗圃担当）

◆職場紹介

昭和32年に植物園に採用され、夏は芝刈り、冬は温室のボイラーマンとして勤務に就きました。その後、庭園・温室各部門が出来てから庭園に所属し、高山植物と樹木の苗木栽培を担当するようになり、現在は庭園の責任者として現在に至っています。

◆仕事内容

①灌水

鉢物主体の高山植物苗圃では灌水作業が重要で、特に夏場は朝夕2回の灌水が必要です。1回に2時間はかかりますから、半日は灌水作業に追われています。

②高山植物鉢物の植え替え

株の更新や忌地を避けるため

③園内種子採集と調整

園内の樹木及び高山植物の種子を採取し、種子交換及び繁殖用としています。採取した種子は莢や殻、果肉などの夾雑物を取り除き、種子だけに調整し、冷蔵庫に保管します。

④繁殖

樹木類、高山植物を実生や挿し木によって、遺伝子資源の更新、増殖を行います。

⑤整枝剪定

樹木の形を整えたり、道路や通路に張り出した枝を取り除きます。ライラック並木では剪定の他に花柄を取りをします。これは種子を着けさせないことで来年の花を良く咲かせるためです。また高山植物園内のアカエゾマツは芽摘みをして大きく伸ばさないようにしています。このアカエゾマツは湿地性で、もともと樹高が2m前後で樹齢150年を下らない物でしたが、植物園に移植してからは通常の生育を示し樹形が非常に崩れやすいので、初夏に伸びた新芽を1/3程度残して全て摘んでしまいます。

⑥冬囲い

樹木及び高山植物鉢植えの鉢などを雪害や凍害から防ぎます。

⑦その他

春・秋の落ち葉集め、開園前の園内整備、用土作り、樹木移植、年報作成など。

◆施設、設備、面積等

ロックガーデンの南側に面積約160坪の高山植物苗圃があり、約160種の高山植物を育成しています。この苗圃の植物はほとんどが鉢植え栽培（鉢数は大、小合わせて、約4,700鉢）で37カ所の棚に置いてありますが、地植えにしている物もあります。また一部、外国産の植物も栽培しています。この苗圃には三角型の屋根になっているフレーム小屋2棟あって南側の屋根の面をガラス張りにしています。1棟は用土などの資材置き場に使用し、もう1棟は発芽試験や植え替えを行い、冬になると中に棚を作りミニ盆栽や寒さに弱い本州産のつつじ類の鉢物を入れて置く場所に使用しています。

◆今後の方向または希望

現在植物園では、庭園と温室に分かれて作業していますが、今後は植物園の共通維持管理は全技官が一緒になって効率的に作業をしていきたい。各技官は担当する仕事に責任を持ち、技術職員の資質向上につながるような作業体系にするのが良いと思う。